

校長の自慢 本校独自の『環境』

西淀川高校の大きな特徴が授業「環境」です。現在は、3年生が必修で毎週2時間の学習をしています。

本校が位置する西淀川とその周辺地域では、明治以降、多数の工場が相次いで建設され、さらに戦後高度経済成長期以降は発電所、大工場、幹線道路が集中し、大気汚染が激甚化しました。熊本水俣病・イタイイタイ病・新潟水俣病そして四日市公害のいわゆる4大公害も社会問題となり、1978（昭和53）年には西淀川公害訴訟も始まりました。ちょうどその年に本校も開校しました。初期の卒業生の話では、昼間でも曇ったようで、窓も開けられなかったこともあったようです。



そんな地だからこそ、本校では環境問題に取り組もうと独自の授業を展開してきました。現在では環境問題について身近なものから地球レベルのものまで、原因や背景も含めて理解できるように授業計画をしています。また問題解決のために自分にできることを実行してもらっています。その一例を紹介します。

◎観察実習園（畑）での作業

授業の中で、土を耕し、芋や菜の花を植え付け、水遣りをして収穫をしています。収穫したジャガイモは調理実習の材料になり、またサツマイモは文化祭の西淀汁の具材にもなります。小さいことですが循環型社会を実践しています。



◎環境フェスタ

年2回の環境フェスタでは、環境授業の発表の場でもあります。また、授業で植えたチューリップがお披露目もされます。



◎下水処理場見学



正門前にある下水処理場。嫌な臭いがするのは確かですが、町を浸水から守り、生活の中で排出する汚水を浄化してきれいな水環境を創り出してくれています。施設を見学することで、その大切な役割を理解しています。

◎町の大気汚染調査

毎年3年生全員でNOx（窒素酸化物）の調査に取り組んでいます。NOxはおもに車の排気ガスとして排出され大気汚染の原因となっています。その調査結果を地図に示し、文化祭で発表しています。



◎公害病患者に聞く



西淀川公害の歴史についてスライドで学び、公害患者会の「語り部」から当時の過酷な環境やぜんそく発作の苦しさなど、公害のリアルな実態をお聞きています。

